

認識精度を高める録音のポイント

Ahmics-Voiceは、録音された音声からAIが言葉を認識し、**前後の文脈**をもとに内容を推測して文字に起こします。前後の会話が正しく聞き取れているほど推測の精度も上がるため、**録音環境と話し方**がとても大切です。

1 マイク・録音環境

こんなときに精度が下がります

- ・ 声が小さく、マイクが拾いきれていない
- ・ 診察室の反響(エコー)が大きく、言葉が聞き取りにくい

対策

- ・ パソコンのマイク入力音量を調整する
- ・ 診察スタイルに合ったマイクを選ぶ

先生と飼主様両方の声を記録 → **全指向性**
先生の声を中心 → **高指向性**

詳しくは 3ページへ ▶

2 話し方

こんなときに精度が下がります

- ・ 早口になっている(特に薬品名・医学用語)

対策

- ・ 一語ずつ、ゆっくり・はっきり話す
- ・ 飼い主様のお話の大切な部分は、先生が復唱する
- ・ 薬品名や数値は、特に区切って話すことを意識する

詳しくは 2ページへ ▶

3 無音の時間

こんなときに精度が下がります

- ・ 無音が長く続くと、かすかな物音を無理に文字起こししてしまうことがある

対策

- ・ なるべく無音の時間をつくらない
- ・ 会話がないうちは「終了」ボタンで録音を止める

△再び話すときは「**録音再開**」ボタンを忘れずに

話し方のコツ

ゆっくり話すと、精度が大きく向上

AIは前後の言葉のつながりから内容を推測しています。少し意識してゆっくり話すだけで、認識精度が大きく向上します。

飼い主様の話し方を変えていただくことは難しいため、**大切な内容は先生に復唱していただくのがおすすめです。**

飼い主様

昨日の夜から何回か吐いてて…多分3回ぐらい…

先生(復唱)

「昨日の夜から、**3回程度嘔吐**しているんですね」

早口になりやすい言葉に注意

文字数が多い言葉や、普段から言い慣れている言葉は、つい早口になりがちです。

医療用語の例

レントゲン

超音波

僧帽弁閉鎖不全症

ヘマトクリット

腫瘍性

吐き気止め

そのほか

数値(体重・検査値・投与量など)

医薬品名

ワンポイント:すべての言葉を意識する必要はありません。薬品名・数値・診断名など、カルテに残したい大切な言葉だけでも、ゆっくり話すことを意識してみてください。

マイクの選び方

マイクの種類によって得意な環境が異なります。診察室の広さや、飼い主様と先生の立ち位置等に合わせてお選びください。

※マイクごとに接続条件があります。詳細は各メーカーのホームページ等をご確認ください。



TYPE A 卓上マイク

サンワサプライ MM-MC23N

全指向性 有線

こんな診察室におすすめ

- ・ 先生と飼い主様の距離が近く、お二人の間にマイクを置ける
- ・ 周囲の話し声が少ない

特長

- ・ 手頃な価格で導入しやすい
- ・ 有線で接続が安定、置くだけで使える
- ・ 音量の自動補正機能はなし



TYPE B スピーカーフォン

Jabra Speak2 40

全指向性 有線(USB) 音量自動補正

こんな診察室におすすめ

- ・ 先生と飼い主様の距離が離れている
- ・ 周囲の話し声が少ない

特長

- ・ 小さな声も自動で音量を補正
- ・ 4つのマイクで周囲の雑音を低減
- ・ USB接続



TYPE C ワイヤレスマイク

PRIMO Mobile Voice WT01

高指向性 無線(Bluetooth)

こんな診察室におすすめ

- ・ 主に先生の声記録したい

特長

- ・ 胸ポケットや首掛けで口元近くに装着
- ・ 雑音除去で周囲の音を拾いにくい
- ・ エタノール等で消毒でき衛生的
- ・ 充電式(連続8時間以上)

お試し貸出

実際の診察室で使ってみてからお選びいただくのがおすすめです。弊社にてマイクの貸出を行っておりますので、お気軽に担当営業までご相談ください。